

日本TCS、「ホケンノカタチ2026」で最優秀賞を受賞

日本タタ・コンサルタンシー・サービスズ株式会社（日本TCS）は、2026年8月6日に開催された保険ハッカソン「**ホケンノカタチ 2026**」で、最優秀賞を受賞しました。

ホケンのカタチは、保険業界のオープンAPI普及と、協業・共創を推進するGuardTechコミュニティが主催するハッカソンです。参加者は、保険業界向けのノーコード開発ツール**Protosure**（プロトシュア）、または、業務アプリケーション開発を加速するノーコード・ローコードプラットフォーム **Mendix**（メンディックス）を用いて、3週間で新しい保険サービスを開発します。エントリー作品は、提出された作品は、保険業界の審査員10名により、(1) 顧客体験価値、(2) ノーコード／ローコードツールの活用、(3) アイデアの革新性とニッチな魅力、(4) 社会課題へのインパクト、(5) 事業化の可能性、という5つの基準で評価されました。参加した12チームのうち、上位3チームにはそれぞれ20万円、30万円、50万円の賞金が授与されました。

日本TCSがエントリーした「**かぞくパルス**」は、ウェアラブルな端末から取得した位置情報や健康データを活用し、高齢者の徘徊や転倒、心身機能低下などの兆候を察知して家族に通知するほか、高齢者が外出先で道に迷った場合は、ワンタップでタクシーを手配できるなど、見守りの機能を充実させています。一方でこれらに連携する保険は、事前に定められた条件に基づいて請求手続きが不要で即時に給付される内容としました。見守りと補償を融合することにより高齢者の自立した暮らしと家族の安心を支えるサービスです。

ハッカソンの審査員長を務めた森・濱田松本法律事務所の篠原孝典氏は、「解決しようとしている社会課題への共感性が高く、実際のサービスを補償として提供する点が新しい保険の形として高く評価された。行政との連携なども視野に入れることで、社会実装が大きく進む可能性を感じた」と評価しました。

日本TCSのチーム代表、ラジャセカール・カンチャーラ（Rajasekhar Kancherla）は、「チームで議論と検討を重ねてきた成果が評価されたことを嬉しく思います。商品化の実現に向けて引き続き取り組んでいきます」と述べています。



日本TCSのエントリー作品「かぞくパルス」

離れて暮らす高齢の親を見守る家族のための新しい保険サービス。AIによる予兆検知、見守り、ケア、パラメトリック保険を融合し、「不安になる前にケアが届く」世界を描いています。

<https://www.youtube.com/watch?v=GB7zNhkKZHW>